

<福島県知事賞>

今までの恩返し

福島市立平野中学校

3年 佐藤 凜

夏のじわりとした暑さが続くようになった7月の初め、テニスコートのある中庭から、カンカンと金属がたてる独特の高い音が聞こえてくる。

この夏、私達の中学校では北側の校舎の耐震工事が行われることになった。今から4年前に起きたあの震災の影響で、古くからあるこの校舎は随分と打撃を受けた。もうあのような地震がこないようにと願ってはいるものの、自然はそうあまくない。それに備えて行われているのだ。

だが1つ問題が。北校舎で学ぶ私達の学習する場のことだ。耐震工事が行われるのなら、当たり前のことながら普段通りに校舎を使うことはできない。さて、どうするのか。

その為に、今現在テニスコートの一面を使って仮校舎が造られている。私達の安全を考えた工事、そして学習できる場所を提供してくれることは、本当に嬉しいことである。

そうやって私達が安心して生活していけるのは、税金から受ける恩恵が大きい。今取り上げた耐震工事のことはもちろん、復興のために行われた道路や建物の整備など、数えだしたらきりが無い。

義務教育を受けた9年間、小学校から中学卒業までに一人一人にかけられて金額は、決して安いものではないだろう。多くの人が働き、それで得たお金を私達の為に納めてくれている。その事実だけで、私達へと向けられている期待や愛情が感じられるのだ。

中学3年生になって、改めて税というものについて考えさせられた。今まではそんなの当たり前だろうと思っていたものも、義務教育終了のその時が近づくにつれて、何ともありがたいものだったのだと深く感謝の気持ちが込み上げてくる。そんな私にできる

ことは一体何だろう。

そう考えた時にふと思った。新しい希望を抱えた幼い子供達、その夢を実現させてあげる為に、今度は私達が納めれば良い。生きてきた中で受けた沢山の恩恵を次は返す番だ。答えはとても近くにあった。

数年経てば私も社会に関わる社会人として働くことになる。恩返し、心の奥での強い決意を忘れずに、光溢れる未来を創り上げる一人としてこれからも生活していこうと思う。